

センターの動向 (2007.4～2008.9)

- 2007年4月1日、京都大学こころの未来研究センターが正式に発足しました。
- 5月26・27日、日本認知心理学会第5回大会においてサテライトワークショップ Workshop on "Visual Cognition" and "Memory and Language"を開催しました。
- 6月24日、京都新聞に「異分野結集、「こころ」探求」(吉川左紀子センター長寄稿)が掲載されました。
- 7月8日、百周年時計台記念館百周年

ホールで京都大学こころの未来研究センター設立記念シンポジウム「こころの探求」を開催、学内外から300名を越す参加がありました。シンポジウムでは、尾池和夫総長の祝辞のあと、吉川左紀子センター長からセンター設立経緯、活動内容、スタッフの研究紹介があり、続いて行動生態学の長谷川眞理子(「こころの進化」)、文化心理学の北山忍(「文化とこころ」)、教育人間学の西平直(「こころと無心」)の各氏による記念講演、最後に、講演者と本センターの4教授(河合俊雄、船橋新太郎、カール・ベッカー、吉川左紀子)による総合討論「こころの探求」が行われました。シンポジウム終了後、国際交流ホールで設立記念祝賀会が開催され、麻生純京都府副知事、上原任京都市副市長、尾池和夫総長、岡本道雄元総長、木下富雄京大名誉教授、丸山企画担当理事、松本研究担当理事をはじめ多数の関係者が出席して、新センターの門出を祝いました。

●9月18日、日本心理学会第71回大会(東洋大学)において、本センター連携プロジェクトのワークショップ「共感的対話における相互作用性に関する多角的研究」が開催されました。企画者:桑原知子(京都大学、本センター連携研究員) 話題提供者:桑原知子、渡部幹(早稲田大学、本センター連携研究員)、長岡千賀(京都大学、学振特別研究員) 指定討論者:仁平義明(東北大学)、名取琢自(京都文教大学)、司会:吉川左紀子(本センター)。

- 第3回博報「ことばと教育」研究助成に、久保南海子助教の研究課題「ことばの読みに困難を抱えた児童に対する早期療育法の検討」が採択されました(京都大学霊長類研究所正高信男教授・伊藤祐康さんとの共同研究)。
- 2008年2月3日、NHK衛星第2放送で、昨年12月に時計台百周年記念ホールで行われた京都文化会議2007の様子が放映されました。番組名:BSフォーラム「地球化時代のこころのゆくえ」。
- 2月26日、NHKのTV番組(「爆笑問題のニッポンの教養」)にカール・ベッカー教授が出演しました。
- 3月1～3日、第3回こころの未来ワークショップ「日本文化とこころの行方——『こもる』ことの意味」を開催しました(京大会館)。1日は「ひきこもりの国」の著者 Michael Zielenziger (米国ジャーナリスト)、文化心理学の北山忍(ミシガン大学)、臨床心理学の河合俊雄(センター教授)の各氏が講演を行い、続いて社会心理学の嘉志摩佳久氏(メルボルン大学)が加わって総合討論を行いました。2日は、Emotion Regulation および Culture, Social Relationship, and Well-being、3日は Culture and Emotion というテーマで、Dacher Keltner (UC Berkeley)、Heejung Kim (UC Santa Barbara)、Eunkook Suh (Yonsei University)、Vinai Norasakkunkit (Minnesota State University)、Yulia Chentsova-Dutton (Georgetown University)、北山忍、嘉志摩佳久、唐沢穂(名古屋大学)、佐々木淳(大阪大学)、内田由紀子(本センター)の各氏および日韓米の大学院生による研究報告と討論を行いました。
- 3月、京都大学基金の中に「こころの未来基金」が設置されました。
- 科学技術振興機構:社会技術研究開発事業研究開発成果実装支援プログラム「e-ラーニングを核とする多様な学習困難に対応した地域単位の学習支援ネットワークの構築(実装責任者:正高信男京大霊長研教授)」(平成20年度～22年度)

- が採択されました。本センターは当プログラムの実装拠点の1つとなります。
- 4月20日、AJAJ日本ユング心理学会主催の「河合隼雄先生追悼シンポジウム」に本センターの鎌田東二教授、河合俊雄教授がシンポジストとして参加しました。
- 5月9日、朝日新聞夕刊に「寺院は癒やしのテーマパーク」が掲載されました。
- 平成20年度(第19回)立石科学技術振興財団研究助成に、番浩志助教(認知神経科学、脳機能イメージング)の研究課題「網膜部位再現性を利用した視覚関連fMRI脳活動の表示・解析手法の開発」が採択されました。この研究は本センター船橋新太郎教授、人間・環境学研究科・齋木潤教授、山本洋紀助教との共同研究です。
- 8月26日～30日、インドネシア、バリ島ウブドゥ村において、大橋力氏(文明科学研究所所長)の企画協力により本センター連携プロジェクト「京都における癒しの伝統とリソース」の研修を実施しました(参加メンバー:吉川左紀子、鎌田東二、河合俊雄教授、内田由紀子助教、畑中千紘、大石高典研究員、渡邊克巳、駿地眞由美連携研究員)。
- 9月19日～21日、日本心理学会第72回大会(北海道大学)において、ワークショップ「文化と進化とこころの未来」が開催されました。企画者:内田由紀子(本センター)、平石界(同) 話題提供者:大坪庸介(神戸大学)、内田由紀子、平石界 指定討論者:長谷川寿一(東京大学)、村本由紀子(横浜国立大学)。また、同大会において本センター連携プロジェクトのワークショップ「共感的対話における相互作用性に関する多角的研究II」が開催されました。企画・司会者:桑原知子(京都大学、本センター連携研究員) 話題提供者:長岡千賀(京都大学、学振特別研究員)、小森政嗣(大阪電気通信大学、本センター連携研究員)、渡部幹(早稲田大学、本センター連携研究員)、吉川左紀子(本センター) 指定

朝日新聞2008年5月9日夕刊、京都大学こころの未来研究センターの研究活動の紹介

討論者:大山泰宏(京都大学)、仁平義明(東北大学)、木下富雄(国際高等研究所)。

●鎌田東二教授の著書が出版されました。『聖地感覚』鎌田東二著、角川学芸出版。『神楽感覚』鎌田東二・細野晴臣著、作品社。

●久保南海子助教の論文が掲載されました。

「学習に困難を伴う子どもの言語学習支援プログラムとそれに伴う認知機能・脳機能の変化について」福島美和・久保南海子・正高信男著、発達障害研究、2008、30、185-194。

「ヒトと動物の回顧的推論について」川合伸幸・久保南海子著、認知科学、2008、15、378-391。

●内田由紀子助教の論文が掲載されました。

「日本文化における自己価値の随伴性—日本版自己価値の随伴性尺度を用いた検証—」内田由紀子著、心理学研究、2008、79、3、250-256。

Uchida, Y., Kitayama, S., Mesquita, B., Reyes, J.A.S., Morling, B., "Is Perceived emotional support beneficial? Well-being and health in independent and interdependent cultures," Personality and Social Psychology Bulletin, 2008, 34, 741-754.

「文化と感情:比較文化的考察と組織論への意義」内田由紀子著、組織科学、2008、41、48-55。

●9月30日、本センター別館(京都市左京区田中関田町2-24 京都学生支援会館2階)の改修工事が終わり、研究室・研修室・実験室等の利用が可能になりました。

スタッフ紹介

〈教授〉

●吉川左紀子(よしかわ・さきこ)

京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学・京都大学)。認知心理学・認知科学。著書『顔の再記憶に関する実証的研究』(風間書房)『顔と心: 顔の心理学入門』(編著書、サイエンス社)他。顔・表情を手がかりに自己や他者のこころの理解・コミュニケーションのしくみを研究。

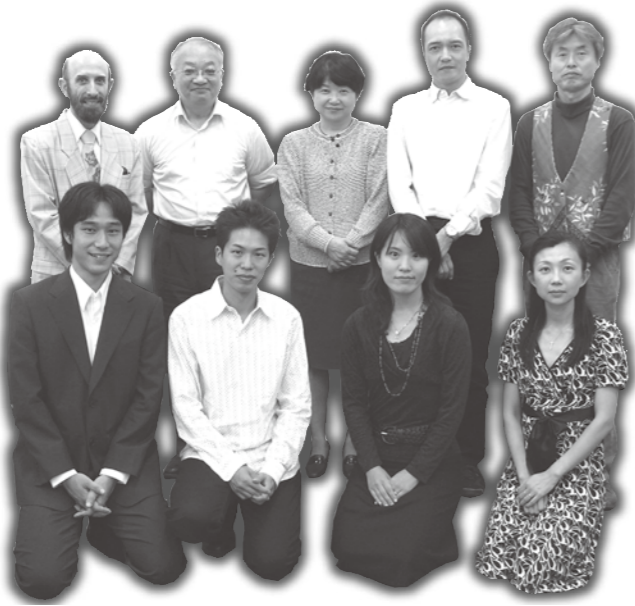
●船橋新太郎(ふなはし・しんたろう)

京都大学大学院理学研究科動物学専攻(霊長類分科)博士課程中途退学。京都大学理学博士。専門は神経科学、認知神経科学。著書『前頭葉のなぞを解く』(京大出版会)ほか。大学院時代より一貫して前頭連合野の機能に関する研究を実施している。前頭連合野の機能の解明をとおして人のこころのなぞを解明したいと考えている。

●Carl Becker(カール・ベッカー)
ハワイ大学大学院東西文化センター哲学研究科修了。博士(東西哲学・ハワイ大学)。1973年初来日後、四半世紀以上日本で研究している。南イリノイ大、阪大、ハワイ大、筑波大を経て、京大で教鞭をとる。死生学・宗教学・医療倫理学・生命倫理学。著書に『生と死のケアを考える』『死の体験』『いのちと日本人』等多数。

●河合俊雄(かわい・としお)
京都大学大学院教育学研究科博士課程中退。PhD.(チューリッヒ大学・心理学)臨床心理学・ユング心理学。著書に『概念の心理療法』『ユング』『心理臨床の理論』、共著に『心理療法とイニシエーション』『心理療法と医学の接点』など。心理療法と身体の関係、心理療法と超越性、現代における意識とこころ観などについて研究。

●鎌田東二(かまた・とうじ)
國學院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。博士(文学・筑波大学)。宗教哲学・民俗学・日本思想史・比較文明論。石笛・法螺貝奏者。著書『翁童論』四部作(新曜社)『宗教と霊性』『聖地



に「進化心理学: 理論と実証研究の紹介」(2000年)、「Maintenance of Genetic Variation in Personality through Control of Mental Mechanisms」(2008年)など。最近では進化的視点と双生児研究を結びつける方法を模索している。

〈特定研究員〉

●大石高典(おおいし・たかのり)
京都大学理学研究

科博士課程研究指導認定退学。理学修士。生態人類学専攻。アフリカ熱帯林にて、小集団社会と自然環境との関わりを研究。

●有田 恵(ありた・めぐみ)
京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士(人間・環境学)。生涯発達心理学。死生学。人の生における死の意味についての研究。

●畑中千紘(はたなか・ちひろ)
京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。臨床心理学。心理臨床場面における語りの聞き方、他者のこころの捉え方についての研究など。

〈日本学術振興会特別研究員〉

●長岡千賀(ながおか・ちか)
大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。認知心理学、感性情報心理学。会話の「間」や身体動作のシンクロに関する検討。

●渡邊 慶(わたなべ・けい)
京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程卒業。博士(人間・環境学)。認知神経科学。テーマ: 意思決定に関与する前頭連合野神経機構の解明。

〈リエゾンオフィスタッフ〉

宮原道子、木原香代子、柴崎 暁子、中川明美、安井大輔

〈事務スタッフ〉

千代進一、榎本賢也、竹中和香子、河内晴美、林芳男

感覚』(角川学芸出版)他。宗教・哲学・芸術を中心にこころと世界観・価値観・人生観・生き方について研究。

〈助教〉

●久保(川合) 南海子(くぼ・かわい・なみこ)

日本女子大学大学院人間社会研究科心理学専攻博士課程単位取得退学。博士(心理学・日本女子大学)。認知発達心理学、比較認知心理学。加齢にともなう認知機能の変化とその行動的な特徴に関心を持っている。また、自閉症や学習障害児を対象に療育プログラムによる脳機能の変化などの研究も進めている。

●番 浩志(ばん・ひろし)
京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士(人間・環境学)。認知神経科学・脳機能イメージング。私たちに豊かな視覚世界を提供してくれる脳の情報処理メカニズムをfMRIなどのイメージング技術を用いて研究。

●内田由紀子(うちだ・ゆきこ)
京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博士(人間・環境学)。文化心理学・社会心理学。著書『わたしから社会へ広がる心理学』(北樹出版、分担執筆)『Handbook of Cultural Psychology』(Guilford Press, 分担執筆)他。感情や対人関係の文化比較を中心に、こころと文化の関係を研究。

●平石 界(ひらいし・かい)
東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。進化心理学・認知科学。論文

本誌の刊行には稲盛財団より援助をいただきました。

編集後記

「センターの研究活動を広く知らせる定期刊行物を作りましょう」。教員会議での鎌田教授の力強い一声で決まった『こころの未来』の刊行が、ここにスタートします。「京大にこんなセンターができる」と喜んでくださった山折先生、「自然体でゆっくり進んで」と励ましてくださった尾池総長、「哲学をしっかりと勉強なさい」と激励してくださった岡本元総長、ご多忙の中、読み応えのある論考をお寄せくださった先生がた、どうもありがとうございました。(吉川)

本センターに着任してすぐ、「こころの未来研究センター」というユニークな名称を持つ研究センターの特徴や活動内容をわかりやすく、魅力的に伝える媒体が必要であると思った。その提案が受け入れられて、『こころの未来』という定期刊行物を年2回(9月と3月)発行することが決まった。創刊号の編集作業を手伝いながら、センターの万華鏡のような多彩さと今日的意義を改めて認識し直した。いやあ、おもしろいとこやなあ。(鎌田)

「こころの未来研究センター」、この新鮮な響きは私たちの想像力をかき立ててくれる。摩訶不思議で、かけがえがなく、時には恐くもある「こころ」をめぐる、これからどんな研究が展開されてゆくのだろう。この学術広報誌が、学問の新しい息吹を感じとっていただけるものになれば幸いである。(原)

こころの未来 創刊号

発行日 2008年9月30日

発行 京都大学こころの未来研究センター
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
電話 075-753-9670
FAX 075-753-9680
<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/>

2008年11月17日より、こころの未来研究センターは下記に移転します。電話番号、FAX番号は変わりません。
〒606-8501
京都市左京区吉田下阿達町46
京都大学稲盛財団記念館内

表紙写真 大石高典(インドネシア・バリ島の棚田)
編集・制作 編集工房レイヴン 原 章
デザイン 鷺草デザイン事務所 尾崎閑也
印刷 株式会社NPCコーポレーション